

第2次安曇野市総合計画 後期基本計画
進捗評価
～課題と今後の方向性～
(令和5年度)

政策部 政策経営課

第2次安曇野市総合計画 後期基本計画 進捗評価

～課題と今後の方向性～

後期基本計画について

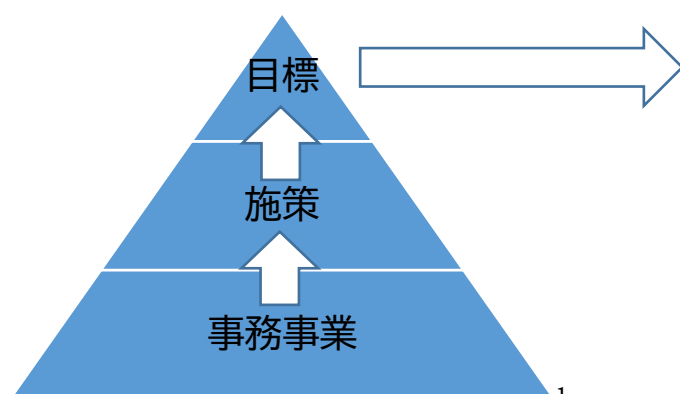
安曇野市は、令和5年度から令和9年度の5年間を計画期間とする「第2次安曇野市総合計画 後期基本計画」を策定しています。

また、市が目指すべき「将来ビジョン」として「自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野」を掲げています。

以下の6つの「目標」は、市の「将来ビジョン」を実現するために市が目指すまちづくりの方向です。その実現のために「施策」を掲げ、具体的な取組として様々な「事務事業」を展開しています。

目標(将来ビジョン実現のためのまちづくりの目標)	紐づく施策の分野
目標1 「いきいきと健康に暮らせるまち」	健康、医療、地域福祉、高齢者福祉、障がい福祉、生活支援、結婚・出産・子育て
目標2 「魅力ある産業を維持・創造するまち」	農林水産、商工、労働・雇用、観光振興、ブランド、アウトドア
目標3 「安全で安心に暮らせるまち」	防災減災、治山治水、交通安全、防犯
目標4 「自然と暮らしやすさが調和するまち」	自然環境、生活環境、温暖化対策、土地利用、景観、水道、道路、公共交通、移住、空家
目標5 「学び合い 人と文化を育むまち」	学校教育、青少年、生涯学習、スポーツ、文化・芸術、歴史・文化
目標6 「みんなでともにつくるまち」	協働、広報・広聴、共生社会、交流活動、デジタル化、行財政運営

取組の体系図



将来ビジョンの実現
「自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野」

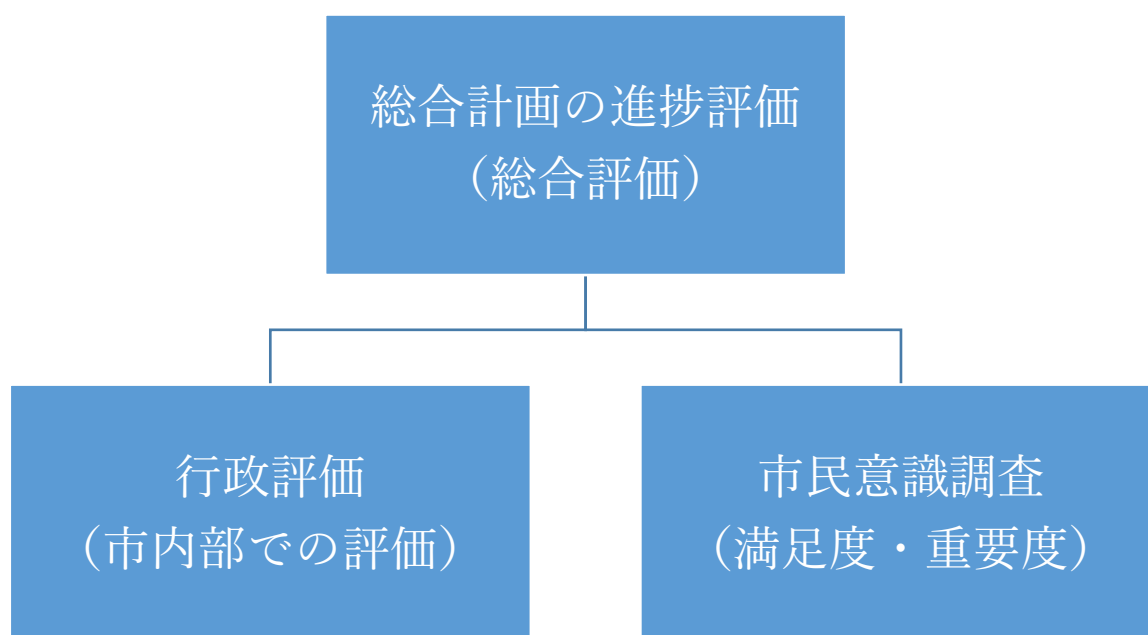


評価の手法

安曇野市では、内部評価として「行政評価」を実施しています。行政評価は、具体的な取組である事務事業に対する「事務事業評価」、そして施策単位で実施する「施策評価」の2本立てとしています。

また、無作為抽出された市民2,000人から市政運営に対する満足度と重要度を調査する「市民意識調査」を実施しています。

今回の進捗評価では、行政評価で各施策の課題や今後の方針を示すとともに、市民意識調査における各施策分野の満足度・重要度の結果をマトリクス別に示しています。
※市民意識調査では、満足度が低く、重要度が高い施策に関する市民の意見を参考として掲載しています。



令和5年度 行政評価
目標・施策別 課題と今後の方向性

目標1 「いきいきと健康に暮らせるまち」 ～課題と今後の方向性～

施策 1-1 健康づくりの推進

- ◆ 高齢化社会の進行により、福祉医療制度の拡充による財政的な支出額増加は避けられない。
⇒ 不要な受診の増加を防ぐためにも、適正な受診をしていただけるような啓発を実施する。
- ◆ がん検診等の受診率が昨年を下回っている。精密検査の未受診者が一定数存在している。
⇒ 生活習慣病等の重症化を予防する取り組みと、生活機能の低下を防止する取り組みの双方を一体的に実施する必要性があるため、関係部署と情報を共有し、連携を図りながら事業を推進していく。
- ◆ 特定健康診査受診率・後期高齢者医療人間ドッグ受診率ともに、前年度に比べ上がっているが、特定健康診査受診率が目標値に達していない。
⇒ 引き続き特定健康診査受診率の向上を目指し、対象者別のアプローチを行っていく。

1-2 保健衛生の充実

- ◆ 受診者数の減少や医療従事者等の確保など、夜間急病センターの診療体制について検討する必要がある。
⇒ 夜間急病センター運営協議会で検討・対応する。医療体制の維持・継続のため、関係医療機関や医師会等と連携を図る。

1-3 地域福祉の推進

- ◆ 令和6年3月に策定した第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画では、市の地域福祉計画と社会福祉協議会の地域福祉活動計画が一体となって推進しているか、地域における課題等が発生しているかを検証しながら地域福祉を推進していく必要がある。
⇒ 第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画の周知を図り、市や社会福祉協議会、委員会での進捗管理を進める。

1-4 高齢者福祉の充実

- ◆ 高齢者が誰でも参加できる地域の住民主体の自主的活動グループを充実の充実が求められているが、地域活動の中心であった市民等の高齢化が進み、活動の継続が困難となっている。また、複合的な問題を抱える要支援者に対しては、介護保険サービスに加え、その他の福祉サービスの充実と地域で支える体制づくり事業が必要とされている。
⇒ 地域ケア会議、生活支援体制整備事業、認知症対策等を通じて高齢者の意欲的な介護予防事業への参加や社会参加を行う仕組みづくりを積極的に進める。また、健康寿命延伸のため、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な推進を図る。高齢者の生きがい活動の拠点である老人福祉センターについては、長寿化計画を踏まえ、今後の在り方についての研究を進める。

1-5 障がい者福祉の充実

- ◆ 自立支援協議会の各市村（地域）での設置に伴う、基幹相談支援センター、総合相談支援センターによる障がい者相談支援体制の整備が課題である。障がいに対する理解の促進や障がい者差別の解消に向けた啓発活動を継続した取組みが求められる。
- ⇒ 基幹相談支援センターが令和5年度から市直営となり、令和6年度からは総合相談も市直営となった。直営の継続も検討しつつ、他事業所への委託も視野に検討していく。また、障がいに対する理解の促進や障がい者差別の解消に向けた啓発活動として講演会等を実施していく。

1-6 生活の安定と自立への支援

- ◆ 物価高騰による相談は続いており、就労による自立が困難な世帯への継続的な支援が必要。
- ⇒ 生活困窮者の状況の深刻度が増さないよう、気軽に相談できる社会福祉協議会のまいさば安曇野と連携した相談体制を継続する。
- ◆ 災害等に見舞われた、り災者の一時避難所や必要に応じた居住先の斡旋を行っているが、希望に沿う一時居住先等の斡旋に時間を要している。
- ⇒ り災者の生活再建に向けた要望に応じて、関係他部署と連携し支援していく。
- ◆ 建築資材や物価の高騰によって事業費が上昇傾向にある。また、市営住宅整備事業等によって転居が必要となる入居者との移転交渉が難航した場合、長寿命化計画に基づく計画的な工事等が遅延することが懸念される。
- ⇒ 公営住宅の維持管理・整備を的確に進めるため、それぞれの市営住宅等の課題を整理し、優先的に実施すべき事項等について計画的に取り組む。
- ◆ ひきこもりに関する相談件数は増加傾向にある。地域社会全体が、ひきこもり状態への正しい理解と関心を寄せる機会を設ける必要がある。
- ⇒ 複数の相談窓口を設置し、当事者や家族が相談しやすい体制の整備に努める。市民の理解を深めるため、講演会等の啓発活動を継続的に実施する。

1-7 結婚、妊娠・出産、育児支援の充実

- ◆ 結婚新生活支援事業の制度の周知として、広報、ホームページ等のほかに、婚姻届受理時にチラシを配布しているが、市外で届出する方などの対応が十分とはいえない状況にある。
- ⇒ 指標である「新婚生活サポート件数」は達成しているが、さらに市内の不動産事業者や、建築士会等の団体などと連携し、結婚新生活の経済的不安の解消に繋がるよう、補助金交付件数の増加を目指す。
- ◆ 女性保護・家庭児童に係る相談業務の内容が多様化・重篤化する中、職員の実務的・精神的な負担も増えており、専門知識を有する相談員の配置や資質の向上が求められている。また、家庭児童相談の対応件数が増加している。
- ⇒ 女性の抱える問題が多様化、複雑化している状況の中、困難な問題を抱える女性に必要な支援を実施していきます。また、家庭児童相談室の体制強化を図る。

1-8 子どもを育む環境の充実

- ◆ 障がいを持つ子どものニーズに合わせ支援の受け皿の充実が必要となっており、補助金の周知が徹底されていない。中でも「重症心身障害児児童発達支援事業所医療的ケア事業等補助金」は、利用事業者が限られている現状にある。
- ⇒ 事業者に対してのアンケート等も検討するなど、ニーズの把握をしながら、補助金の周知を行い障がいを持つ児童の受け皿の充実を図る。
- ◆ 医療的ケア児の支援に対する支援についてもニーズが高まっており、相談支援体制の強化が求められている。
- ⇒ 令和6年度より配置（兼務）している医療的ケア児等コーディネーターを中心に支援の強化を図る。
- ◆ 支援が必要な児は増加傾向にあり、相談件数が増えている。また、育児に対する未熟さや不安感の強さなどから、支援を必要とする保護者が増えている。
- ⇒ 保護者との関わり方や子どもへの理解を深めるため、専門職の知識の向上や係内ミーティングの実践に努める。また、未就学児及び児童生徒への知能検査を行い、就学相談や関係機関へのつながりを支援する。
- ◆ ファミリーサポート事業による支援件数は増加傾向にあり、ファミリーサポート事業協力会員の増員と質の確保が求められている。
- ⇒ ファミリーサポート事業協力会員の増員と情報交換のため、養成講習会（年2回）を開催する。
- ◆ 児童クラブは、令和6年4月現在で市内9か所の児童クラブの内6か所で6年生までの受入れを行っている。児童クラブ利用希望者は増加しており、受入れ施設の確保が求められている。
- ⇒ 学校の教室活用を基本に児童クラブの受入れ体制を整えていく。

1-9 質の高い保育・幼児教育の実現

- ◆ 待機児童解消のために受け入れ拡大を進めている中、保育士確保が重要な課題となっている。
- ⇒ 出生率が低下する一方、3歳未満児の入所人数は、小規模保育事業所を増やしただけ増えている。今後は、公立園、私立園、小規模保育事業所のそれぞれの役割を考えていくことが必要。
- ◆ 園児や保護者が自然に触れ、郷土愛を育む機会を創出する活動を継続していくことが必要。
- ⇒ 各園の特色ある自然保育を継続し、効果的な情報発信ができるよう体制を整えていく。
- ◆ ICT化については、保育士の事務がスムーズに行われるように職員研修を行い、保護者の利便性をさらに高めていくことが必要。
- ⇒ 研修会の実施や様式について検討を進め、職員の処遇改善を目指す。

目標2 「魅力ある産業を維持・創造するまち」 ～課題と今後の方向性～

施策 2-1 担い手の確保と農地の有効利用

- ◆ 担い手の高齢化・後継者不足や農地の有効活用等の地域の課題解消に加え、国内の人口減少やグローバル経済の変化にも対応していくことが求められている。
- ⇒ 農業を生業とした、新たな担い手を確保していくため、支援窓口を充実させ、家族経営の農家と集落営農組織への支援を推進する。また、新規就農者の確保・育成のために、スタートアップ支援、住まい・農地の確保支援を推進する。

2-2 生産振興と販売力の強化

- ◆ 農業のサプライチェーン、国内市場の縮小、コメの流通の自由化の流れの中で、転換期を迎えており、「選ばれる農産物」を増やししながら、地域全体の競争力を高めていく必要がある。
- ⇒ 地域全体の生産活動を維持し、農産物の質の確保のため、地域での農産物の基準づくり・検査に取り組むとともに、農業生産におけるGAPの導入や食品加工・製造におけるHACCPの導入に向け情報収集や発信に取り組む。また、マーケティング情報を収集・分析し販路の維持・拡大、有利販売先の開拓に取り組む。

2-3 森林の保全と資源の活用促進

- ◆ 林業従事者数は目標以上となったが、今後も必要となる担い手を安定的に確保していく必要がある。また、新規狩猟者数は増えている一方で、猟友会員の高齢化が進んでおり、事業効果が十分に発揮できない要因となっている。
- ⇒ 従来の各事務事業に加え、森林環境譲与税の使途や、里山再生計画における企業との連携強化などの事業展開により、林業従事者数や猟友会等、担い手や後継者の安定確保を図り、森林の適正な管理や森林資源の有効活用の推進、持続可能な森林づくり等を推進する。

2-4 商工業の振興

- ◆ 次世代育成セミナー及び創業実現セミナーへの市内事業者へ参加を促し、持続的な経緯基盤の強化と新規事業者の定着を推進する必要がある。
- ⇒ 若手事業者を支援することにより、経営基盤の強化を図る。また、事業者間の連携を醸成し、活力ある商業を創造する。
- ◆ 北穂高地域の既存の産業団地周辺を候補地として地権者等への説明会を行い官民連携による事業を推進する中、地域の理解を得ながら用地取得と企業誘致を並行して行う必要がある。
- ⇒ 連携事業者と連携を密にし、地元の理解を得ていく。
- ◆ 市内建設業者が負担する社員の資格取得費用を補助することで、技術者の人材育成や建設業者の経営と雇用の安定につながっている一方で、試験合格へのハードルが高い状況にある。
- ⇒ 令和3年度から建設業資格制度が改正され、一部の資格で段階的な取得が可能となった。これにより受験意欲が高まる傾向にあり、引続き制度活用について周知をしていく。

2-5 市内事業者の経営強化

- ◆ 市内企業の継続的な展示会出展を支援する必要がある。
- ⇒ 市内企業の意見を参考に、効果的な補助事業を充実させていく。

2-6 多様な働き方への支援

- ◆ 求職者のために就職面接相談会の開催や参加企業数を増やす必要がある。
- ⇒ ハローワーク松本と連携して、求職者の面接の機会を増加させていく。
- ◆ 市内の若者が地元企業に魅力を感じ、地元就職のための PR が必要。
- ⇒ 各種支援事業を関係部局と連携しつつ、県内外に PR する施策を展開する。

2-7 地域独自の観光資源の活用

- ◆ 観光地としてのブランド力向上や市民を含めた認知度向上を図るため、新たな地域ブランド創出の取組や、中長期的な戦略に沿った取組が必要。
- ⇒ 「アドベンチャーツーリズム」や「天蚕の里 安曇野」といったテーマ性を持った取り組みを積極的に進め、特色ある地域資源の認知度向上により市のブランド力を高めることで、観光誘客や関係人口の拡大につなげる。
- ◆ 観光協会や商工会など関係団体が連携を取りながら観光地経営体制の構築や受入体制整備などの事業を進めていく必要がある。
- ⇒ 持続可能な観光地づくりの実現に向け、国や県の支援メニュー等も活用し、観光地経営の推進体制の構築や、地域経済の好循環、関係人口拡大など戦略的な視点に立った施策展開を図る。
- ◆ 観光施設等について、財源確保も含めた計画的な維持管理と市内のエリアごとに面的にとらえた中で施設の役割等を明確にし誘客等図っていく必要がある。
- ⇒ 東部アウトドア拠点整備基本構想とも連携し、アウトドアを軸に訴求力のあるコンテンツ開発や事業者等の観光 DX 推進、平地・山岳ごとの受入体制強化と施設の長寿命化計画に沿った効率的な維持管理を図る。

2-8 戦略的な観光プロモーション

- ◆ アドベンチャーツーリズムの推進や大阪関西万博の開催など国内外の今後の観光需要を踏まえ、地域資源の特徴やアウトドアなどテーマ性に沿った戦略的なプロモーション活動と発信方法の見直しが課題となっている。
- ⇒ インバウンド需要の拡大など今後を見据えた対応など戦略的視点を持って情報発信に取り組む。また、観光 DX の推進により、マーケティング手法や構築した観光メタバースなどのデジタル媒体を活用することで既存の PR 手法の見直しを図り、市の特色を明確にしながら、旅行前から旅行後を通じて対象ごとに訴求力のある情報発信を行う。なお、国外など市単独ではできない情報発信については、観光広域団体などを活用し取り組む。

2-9 アウトドア・スポーツを核としたまちづくり

- ◆ サイクリングコースに利用状況の把握ができておらず、今後の活用方法が見出せていない。
 - ⇒ サイクリングコースの利用実態調査を実施し、その調査結果から今後の整備計画や活用方法を検討していく。
- ◆ ハーフマラソン大会について、今後、物価高騰等の影響により参加料を引き上げざるを得ない場合に、エントリー数を維持できるよう興味関心を持たれる大会を継続していくことができるか慎重に考慮する必要がある。
 - ⇒ 社会情勢や他の大会状況等を確認しながら、参加料を含めできる限り現状を保持しながら開催できるよう調整していく。
- ◆ マウンテンバイクコースの管理を直営から指定管理にしたメリットを生かし、さらなる利用者の増加を図るための事業を展開していく必要がある。
 - ⇒ 指定管理者主体の競技大会や教室の開催、小学校の課外授業などへの誘致により、利用者の増加を図っていく。
- ◆ 令和5年度にアウトドア資源を活用して明科地域を活性化させるための基本構想を策定した。今後は機運の醸成に加え、庁内各部署や関係者との連携が必要。
 - ⇒ 河川及び公園にかかわる基本設計に着手する。推進体制の検討を行うとともに、ウォータースポーツ関連イベントの開催等により、機運の醸成を図る。

目標3 「安全で安心に暮らせるまち」 ～課題と今後の方向性～

施策 3-1 防災・減災対策の推進

- ◆ 旧耐震基準で建築された住宅の所有者は高齢者が多く、耐震改修には多額の費用が必要との認識から、工事に踏み切れない方も多いものと推察される。
- ⇒ 耐震補強が必要な住宅の所有者に改修工事を実施してもらえよう、耐震化の重要性や補助金・低コスト工法等の情報を、DM等を通じて積極的・効果的に発信していく。
- ◆ 避難行動要支援者の分散避難先として宿泊施設などの民間施設との連携を進めているが、その多くが山麓線沿に所在しているため、被害想定区域を考慮した選定が必要。
- ⇒ 協力体制の強化を図るため、協定締結対象の選定及び調整等を引き続き進める。
- ◆ 災害によって無線通信設備が損壊する可能性があるため、市民に対する情報伝達手段の多重化を図っていく必要がある。
- ⇒ 防災に関する設備については、引き続き維持管理を徹底するほか、時代に即した新たな発信手段（各種SNS等）の検討も進める。

3-2 地域の防災活動の強化

- ◆ 近年の災害に学び、要支援者の早期避難行動の重要性が注目されている。地域の支え合いを中心に据えた名簿の活用を継続して、市民、地域、区長会等へ説明していく必要がある。
- ⇒ 関係機関等に名簿の目的等を丁寧に説明しながら、平常時からの見守り体制を強化し、社会福祉協議会と共催する「災害時住民支え合いマップ」の作成と関連させて災害に備える。また、要支援者一人ひとりの避難行動についての個別避難計画づくりの検討を開始する。
- ◆ 市民の自主防災意識を高めることが、災害時における被害の拡大防止や軽減につながるため、自主防災組織訓練実施率の更なる向上が必要。また、地域防災力の中核を担う消防団の体制確保が急務となっている。
- ⇒ 講座等の依頼を待つ受け身の姿勢ではなく、各種機会を捉えた積極的な働きかけを行い、地区防災訓練の実施率向上を図る。また、消防委員会等を通じて“魅力ある消防団づくり”に向けた検討を進める。

3-3 砂防・治水事業の推進

- ◆ 国や県へ事業の必要性や効果を理解してもらうための工夫が必要。
- ⇒ 同盟会等組織や関係者と協力し、事業化や事業推進に向けた要望活動を展開していく。
- ◆ 近年の異常気象により激甚化・頻発化している水害等に備え、倉庫内にある資機材に不足がないよう日常管理を適正に行うとともに、良好な河川環境を維持していく必要がある。
- ⇒ 倉庫内にある資機材の数量等を日常的に把握し、不足があれば適期に補充を行うほか、河川維持工事も出水期前に実施し、予測できない災害に備える。

3-4 防犯・交通安全の推進

- ◆ 安全安心まちづくりを進めるため、各区と連携し防犯灯設置が求められている。
- ◆ 防犯啓発・特殊詐欺被害防止対策機器購入補助金制度について高齢者宅訪問を行うなど高齢者対策が必要。
- ⇒ 詐欺被害を防ぐため、ホームページや交通安全教室などで広報を行う。特殊詐欺被害防止対策機器購入補助金制度も引き続き広報を行う。
- ◆ 高齢者が関係する事故割合が増加しており、抑制のための取組が必要。
- ⇒ 交通安全教室は、あらゆる年代合わせたメニューを用意しているので、興味を持っていただくような広報をし、特に高齢者の関係する交通事故減少に努める。自転車乗車時の安全を守るため、ヘルメット着用を呼びかけ、購入補助金制度の広報を行う。
- ◆ 区や PTA などから道路反射鏡や標識に対する設置要望が毎年多くあり、すべての要望に早期に伝えていくことが困難な状況です。
- ⇒ 区要望などに対し、緊急性・必要性を判断しながら、効果的な安全施設整備を進めていく。

3-5 消費者保護の推進

- ◆ 消費者相談の内容は、年々巧妙化しており、弁護士・司法書士による無料相談会を定期的に開催している中、相談数は増加傾向にある。
- ⇒ 相談業務の広報は、ホームページ等で案内するとともに、巧妙化する商法に合わないよう出前講座を開催する。
- ◆ 生活相談の多くは、庁内関係部署に引き継ぎを依頼することがあるため、連携が必要。
- ⇒ 個々の相談に対応しうる担当部署へ早期の案内を行う。近隣市町村担当者との情報交換や指導権限を有する県との連携を行うとともに、担当者のスキルアップを研修等で行う。

目標4 「自然と暮らしやすさが調和するまち」 ～課題と今後の方向性～

施策 4-1 自然環境の保全

- ◆ 人為的な地下水涵養に資する施策を模索しているが、水利権等の課題により直接河川水を涵養に使用することが難しい。
- ⇒ 地下水環境の改善として、「保全」と「利用」のバランスである水収支の改善、安曇野市内の水田からの涵養を含む人為的な涵養施策による涵養量増強と適正量の揚水量や節水の啓発等による地下水の適正利用に向けた周知を行う。
- ◆ 毎年開催している環境フェアは、内容によって人気の高い低いがあり、バランスを考えたイベント内容と子どもが楽しめる体験を含めていく必要がある。
- ⇒ 工業会や商工会、教育機関（大学、高校、小中学校）など連携し、子どもたちが体験できる環境プログラムを検討する。
- ◆ 自然観察会（R5 は年 3 回開催、参加者数 218 人）は参加希望者が非常に多く、抽選に漏れる方も少なくない状況にある。
- ⇒ より多くの方が参加できるよう運営に関して検討を行う。

4-2 循環型社会の実現

- ◆ 緑のリサイクル事業でのチップについて、活用方法等の検討が必要。
- ⇒ 民間事業者からの提案を受け有効な利用について検討を進める。
- ◆ 生活雑排水処理施設は両施設とも老朽化が進み、毎年予期しない修繕が発生している。雑排水の投入量は年々減少し、最終的には廃止せざるを得ないが、下水道への接続を予定していない家庭への対応が必要。
- ⇒ 生活雑排水処理施設の利用者に対して、下水道への接続を促していく。

4-3 脱炭素社会の実現

- ◆ 第 2 次地球温暖化対策実行計画に基づき、目標達成に向けた具体的な取り組みが必要。また、市民や事業者とも危機意識を共有し、協力・連携して取り組むことが必要。
- ⇒ 実行計画で示したロードマップに基づき、関係団体等と連携して施策を進めるとともに、公共施設等への PPA 太陽光発電設備の設置やバイオマス燃料の活用を推進する。また、屋根置き太陽光、蓄電池、V2H 等の地球温暖化対策設備の更なる普及を図る。

4-4 自然と発展が織りなすまちづくり

- ◆ 土地利用制度の見直しに際して、少子高齢化や空家・空地対策が課題。立地適正化計画における課題として、居住誘導区域外である田園地域などの郊外部への移住需要が高い状況が続いている。
- ⇒ 制度の課題を整理し、さらに少子高齢化や空家・空地対策に繋がるよう検討を進める。

- ◆ 都市再生整備計画事業により整備した施設を活かし、明科地域の賑わいに繋がる取組が必要。
- ⇒ 都市再生整備計画事業は完了したが一部工事は過疎債を活用して継続、事後評価を実施して今後の事業展開などを検討する。駐輪場への屋根設置については、地元区からの要望等に基づき、関係部署と調整を行いながら対応を検討する。

4-5 暮らしと調和する景観の保全

- ◆ 市民の緑化意識高揚に繋がる取り組みが必要。
- ⇒ 市民、企業に沿道緑化の参加を促すことや、緑化コンテスト、緑化講座の定着を図ることで、緑の基本計画に位置付けた各施策を推進する。
- ◆ 景観条例及び屋外広告物条例に基づく必要な手続きが行われていないもの等に対し、適切に対応していく必要がある。
- ⇒ 景観・屋外広告物に係る制度の周知と定期パトロールを継続して実施するとともに、既存不適格の屋外広告物や手続きを行わない事業者等に対し、適切に対応する。
- ◆ 景観づくり住民協定地区における活動組織の構成員が高齢化していることから、活動を継続するための対策が必要。
- ⇒ 景観育成団体への支援や団体間の情報共有を通じて活性化を図る等、活動の継続対策に取り組む。
- ◆ 記念樹の配布対象者は把握が可能なため直接案内を行っているが、生垣設置に係る補助については、さらに周知を図る必要がある。
- ⇒ 広報誌・ホームページでの周知を継続して行うとともに、効果的な周知方法の検討や内容等を工夫すること等により、緑化率の向上を図る。

4-6 道路整備の推進

- ◆ 国・県へ事業の必要性や効果を理解してもらうための工夫が必要。また、限られた予算のなかで、選択と集中による事業の推進が必要。
- ⇒ 同盟会等組織や関係者と協力し、事業化や事業推進に向けた要望活動を展開する。また、整備効果を見極めながら事業個所を選定する。
- ◆ 老朽化が進む道路ストックに対し、維持補修が追いつかない状況にある。また、国の重点事業である橋梁修繕では、毎年一定の交付金配当があるが、計画どおりの事業進捗は計れていない。舗装修繕も含め、財源の確保が課題。
- ⇒ 緊急性・必要性を判断しながら、効果的な維持修繕を進める。
- ◆ 除雪対策では車両や機械の老朽化により、更新が必要。また、除雪受託者の高齢化及び担い手不足が進んでいる。
- ⇒ 除融雪車両及び凍結防止剤散布機の更新は、補助金等を活用し計画的に行う。また、受託者の高齢化や担い手不足の対策として、公募などを行い、新規受託者の参入を図る。

4-7 上下水道の安定経営

- ◆ 明科飲料水供給施設について、施設の老朽化、経年劣化による機器更新など費用負担が課題。
- ⇒ 山間地域では供給戸数や使用料の増加は見込めないが、市民生活に必要不可欠事業であることから、施設の維持管理に務める。

4-8 持続可能な公共交通の形成

- ◆ 利用者の拡大、維持、利便性。観光客の利用。
- ⇒ AI 活用型デマンド交通システム導入や実証実験などの検証を行う。交付金を活用した事業を実施する。
- ◆ 鉄道の減便、廃線など、事業者の意向に左右される。
- ⇒ 引き続き沿線自治体と協力しながら利用促進を図る。
- ◆ 市営駐車場管理業務や駅関連施設の管理に関して、一部の利用者に迷惑行為があり、対応に苦慮した。関連施設環境の美化及びマナーを守るように PR が必要。
- ⇒ 利用者が気持ちよく施設を利用できるように、委託駅連合会と連携して、環境維持及び利用促進に努める。

4-9 良質な住環境の整備

- ◆ 合葬式墳墓の利用率が上昇しており、利用状況やニーズを踏まえ新設を検討する必要がある。
- ⇒ 合葬墓の増設、管理料・使用料のあり方について研究を進める。
- ◆ 道の駅の管理について、行楽シーズンや帰省時期等における施設利用者の増加に備えた管理が必要。施設は平成 11 年に建築してから 25 年経過しており、経年劣化が見受けられる。
- ⇒ 指定管理者との連絡調整を密にし、多様なニーズに合わせた施設管理を行うとともに、トータルコストや施設の長寿命化を意識した計画的な維持管理を行う。
- ◆ 市民参加による公園管理を目指し、公園愛護会制度に取り組んでいるが、地域の高齢化などから、現在の参加団体の維持が困難な状況にある。
- ⇒ 公園愛護会制度への参加を推進し、活動しやすい制度となるよう検討する。
- ◆ 施設の老朽化や近年のゲリラ豪雨被害により、都市下水路や市街地排水路の維持改修要望が増えている。
- ⇒ 優先度や効率的な施工に考慮しながら対応していく。

4-10 移住・定住の推進

- ◆ 移住支援に関し、移住者のターゲットである「子育て世帯」への情報発信の見直しが必要。
- ⇒ 今後も移住を検討される方々への相談に応じる。漠然と移住を検討している方々への PR 手段として首都圏でのイベント開催や、フェアに参加し、移住先としての認知度を高める。また、市内には、移住相談に応じる方や団体の皆さんがいることから、行政と連携し、移住希望者のニーズに応えられるようネットワークを強化する。

- ◆ 若者の地元回帰に関し、10 代後半から 20 代前半の若者の転出超過が続いている。
- ⇒ 令和 6 年度から始まる、小中学校出前講座を先生方に周知し、先生方にも「安曇野の魅力」を知っていただけるよう、学校教育課、地域づくり課と連携して進める。また、20 代前半の転出した若者をターゲットとした「地元回帰」を促す広告を掲出する。

4-11 空き家対策の推進

- ◆ 空家の利活用に関し、空家は高齢化と共に増加傾向にある。移住者などからの要望である「空家を活用した住まい」は、需要に対し供給数が少ない状況であるため、機会を損失している状況にある。また、空家所有者への働きかけ等が十分にできない状況であり。草木の繁茂等の管理不全空き家も増加傾向にある。
- ⇒ 「空家等対策の推進に関する特別措置法」による、「空家等管理活用支援法人」を指定することで、法人による空家の利活用や適正な管理が促進されるため、早期導入を検討する。また、令和 6 年度から委嘱した地域おこし協力隊員による明科地域を主体に空家の掘り起こしを進めるとともに、各種イベントの開催や、SNS 等の空家に関する情報発信を強化し、交流人口、関係人口の増加を図る。

目標5 「学び合い 人と文化を育むまち」 ～課題と今後の方向性～

施策 5-1 学校教育の充実

- ◆ 学校運営協議会の支援と、地域公民館が主体で開催する「地域学校協働活動本部連絡会」との連携を深める必要がある。
- ⇒ 引き続き地域人材や資源の活用を進める。
- ◆ ICT の活用は、教員の端末活用に関しての差が生じないよう ICT 支援員による研修実施や、ICT 専門業者による教職員からの相談対応ができる体制を維持する必要がある。
- ⇒ 継続的に研修実施できるよう支援体制整備を整備する。
- ◆ 物価高騰により、給食費の値上げと合わせて公費を投入し、保護者の経済的負担抑制を行っているが、今後も予想される物価高騰への対応が課題。また、給食センター等の設備の老朽化が課題。
- ⇒ 給食に要する費用は財政部局や給食センター運営委員会との協議のうえ方向性を検討する。給食センター等の施設の改修や機械設備・厨房機器等の更新は、優先順位に基づき、長期計画を策定し計画的に実施する。

5-2 家庭・地域との連携の推進

- ◆ コミュニティスクールに関し、地域住民の事業の認知度がまだ低く、周知広報が必要。また、地域コーディネーターの役割や任務が不明確であることや、地域への浸透が進まず、地域学校協働活動が広まっていけない現状にある。
- ⇒ 学校運営協議会委員研修を実施し、学校運営協議会の機能の有効活用を図る。また、各学校が発行する学校だよりなどで、コミュニティスクール事業の周知を図る。
- ◆ 子ども会育成会事業では、子どもの自主的・主体的な活動となるよう工夫が必要。学校 PTA の活動が変わってきており、育成会の在り方、かかわり方に課題が出ている。放課後子ども教室のスタッフ確保が困難な状況になっている。
- ⇒ 育成会活動及び放課後子ども教室が継続的に進められるよう支援を行う。
- ◆ 黒沢洞合自然公園の整備に併せて、完成後の維持管理体制を整備する必要がある。
- ⇒ 市民と行政による管理体制を確立するため、検討委員会との協議を進める。

5-3 生涯を通じた学びの創出

- ◆ コロナ禍においても学びを止めないことの重要性が認識され、ICT（情報通信技術）の活用が不可欠となっている一方で、ICT を活用できない方への配慮が必要。
- ⇒ コロナ禍の経験も踏まえ、事業の継続性を大事にしながらも、市民ニーズや時代の潮流に即した講座を開催する。また、市民がより参加しやすい講座づくりのため、ICT の一層の活用を進めるとともに、多くの方が ICT を活用できる取組を進める。

- ◆ 図書館の利用者数、貸出冊数は、いまだにコロナ禍による利用者数の減少から回復途上であり、利用者数増加のための取組が必要。
- ⇒ 利用者の拡大のため、利用者のニーズの把握に努めるとともに、図書館サービスやイベントを開催する。また、読書が困難な方に対応した図書館づくりや書籍のデジタル化対応として市町村と県による「協働電子図書館」事業を推進する。

5-4 スポーツを楽しむ環境の充実

- ◆ 競技団体等への激励金の交付は増加したが、市主催の教室への参加者は、PR不足もあり、種目によっては定員に達しないものもあった。また、少子化等によるスポーツ離れを防ぐため、親子で関心を持てるようなPR方法の検討が必要。
- ⇒ スポーツ協会を通じて、スポーツへの関心、クラブ等への加入促進を高めるよう、広報やHP、SNSを活用しながら広く周知する。また、教室から自主的なサークル活動へ移行することで、生涯スポーツへとつなげていく。

5-5 文化・芸術活動の推進

- ◆ 多くの市民が芸術文化にした住む機会の創出につながるよう、芸術系大学との連携を図り、市内での芸術家や学生等の滞在制作の本格実施や、市民との交流機会の創出できる体制や拠点の整備を進める必要がある。この拠点としての鐘の鳴る丘集会所の改修のほかにも、博物館等施設の建設から年数が経過し、施設や設備の劣化が進んでいることから、施設の長寿命化を計画的に進める必要がある。
- ⇒ 芸術系大学と連携し市内での文化芸術の振興を図るため、滞在制作拠点を整備し、芸術家の滞在期間中に、市民や子どもたちとの交流の機会を創出する。文化施設の長寿命化工事を実施し、市民が集い文化芸術に親しむことができる環境を整える。
- ◆ 小説「安曇野」のPRに関して、パンフレットやHPの作成を通じて取り組みの趣旨や小説の内容、登場人物、ゆかりの場所などを紹介することができた。今後は市内の機運の醸成が課題。また、大河ドラマ化するには、制作者側の判断に委ねる部分が大きい。
- ⇒ クラウドファンディングを活用し、完結50周年の節目に小説の復刊を行う。制作者側には引き続き働きかけを行うとともに、市内の機運の醸成を図る。

5-6 歴史・文化遺産の継承

- ◆ 文化財保存活用地域計画を策定し、市内の有形・無形の文化財の保存・活用を進める必要がある。また、新市立博物館の建設、既存の博物館施設の統廃合の検討を進める必要がある。
- ⇒ 新市立博物館構想の見直しを進め、安曇野市に相応しい博物館・運営体制・事業内容のあり方を検討する。

目標6 「みんなでとらにつくるまち」 ～課題と今後の方向性～

施策 6-1 協働によるまちづくり

- ◆ 広島平和記念式典参加事業は10回目の参加となったが、被爆者を含む戦争体験者が年々減少する中、実体験を聞く機会が減り、平和事業の規模縮小等が懸念される。若い世代が、主体的に平和学習を推進し、同世代への波及効果を高めるための取組の検討が必要。
- ⇒ 引き続き松本大学の「平和創造研究会」との連携事業により、所属する大学生に事前学習から成果発表まで携わっていただき、大学生と中学生との交流を通じ、双方がより一層深い学習効果を得られることを目指す。
- ◆ 区の役員担い手不足、区のDX研修、高齢者の区の関わり等について検討が必要。また、区長等役員の任期が1年の区が多いため、区長会等の継続性に課題がある。
- ⇒ 各種課題への対応を進めるとともに、区長会及び事務局のあり方について研究を行う。また、市民活動の拠点として、市民活動サポートセンターの整備に取り組む。

6-2 共生社会の実現

- ◆ 性の多様性に関する間違った情報による不安から、差別や偏見に繋がる可能性がある。他方で性差による格差解消のため、女性が社会でより活躍できる環境づくりが必要。
- ⇒ 性の多様性については、県と協力してパートナーシップ制度等の周知と理解を進める。
- ◆ 外国籍市民相談窓口の認知向上に伴い、相談や問い合わせ件数の増加や内容の複雑化が見込まれる。
- ⇒ 外国籍市民相談員のスキルアップのため研修機会を増やす。
- ◆ 人権のつどいは、企業人権講演会と共同開催もあり高い評価を得られたが、参加者が少ないことや、年齢層の偏り等が課題。
- ⇒ 共生社会づくりフォーラムでは、より広い世代が関心を持てるような講演内容と講師の選定を行い、集客向上を図る。関係団体の活性化に向けて連携と活動への支援を行う。
- ◆ インターネット上での誹謗中傷や差別を助長する情報発信は社会問題となっており、人権教育の重要性は高まっているが、研修会や地区での人権学習会への参加者は固定化の傾向にある。
- ⇒ 地域・地区公民館主催の人権学習会や人権だよりの発行、地域公民館（5館）の掲示板を活用した啓発活動に取り組む。

6-3 交流活動の推進

- ◆ 交流事業について、コロナで事業が中止になっていたこともあり、事業継承が不十分。会員の高齢化が進み後継者の育成が課題である。
- ⇒ 事業がスムーズに継承できるような体制や資料を整えるとともに、引き続き関係者と連携を密にしながら事業を実施する。若手会員加入の働きかけを行う。

- ◆ 農家民宿事業について、市民や交流人口の農業への理解を深め、都市農村交流事業を推進し「農」に関わる場の提供の確保が必要。
- ⇒ 合同実施自治体の受入れが縮小していることから、農家民宿の受入れ体制を充実するとともに多様な農業体験の場を確保する。

6-4 デジタル技術を活用した行政変革

- ◆ デジタルデバイドの解消に努めつつ実際の利用につながる取組を目指す中で、LINE など市民が馴染みやすいツールにより使いづらいイメージを払拭し、対応業務拡張に努める中で利用拡大を図る必要がある。
- ⇒ デジタル技術を利用した申請受付等を今後も拡大する。令和 6 年においては、住民基本台帳関係証明書（住民票、印鑑登録証等）、上水道閉開栓関係、検診予約（肺がん CT、骨粗しょう症等）に係る申請の電子化を予定。その他業務についても、関係課等と調整し順次電子化を進めるとともに、SNS 等により対象業務の拡大の周知に努め、利用の勧奨を行う。併せて情報セキュリティに係る動向を注視し、市民等利用者への的確な情報提供に努める。
- ◆ 令和 6 年 12 月の現行の健康保険証廃止にともないマイナ保険証の需要増加が見込まれるが、来庁が困難で自力では申請・交付が困難な市民・通知送付済みではあるが一定期間カードの受取がない市民への対応が課題である。
- ⇒ マイナンバーカードの普及促進は継続するが、今後は来庁が困難でも希望があればカード取得できるよう、個別のニーズに対応した事前予約からの訪問申請受付を行う予定。また窓口申請ツール（コンビニ交付）の各支所への導入を進め、利便性向上を図る。

6-5 市民の視点に立った行財政運営

- ◆ ふるさと納税について、令和 2 年度の 10 億 7 千万円をピークに採納額は年々減少している。主な原因として、当市の返礼品の主体である電化製品（国内 PC）の減少が要因となっている。
- ⇒ 今後、製品の更なる PR や魅力ある返礼品の開発、役務・サービス等の返礼品の充実に努める。また、農産物や加工品等の充実に努め当市のリピーターを確保しつつ、新たな特産物の PR 等を通じ新たな寄付者の取込みを行う。
- ⇒ 公共施設再配置計画 10 年計画を毎年更新し、譲渡または廃止となっている施設について、早い段階から丁寧な説明を行い、合意形成に努める。また、老朽化した車両の更新は計画的に継続する必要がある。
- ⇒ 低未利用財産は、他の施設への活用の可能性などの検討を行う。指定管理者制度については、より質の高い行政サービスの提供や施設の有効活用を図るための研究に加え、施設の民間譲渡などは市の政策との関連も踏まえながら進めていく。また、電気自動車やハイブリッド車などへの計画的な更新を進める。



令和５年度 市民意識調査について

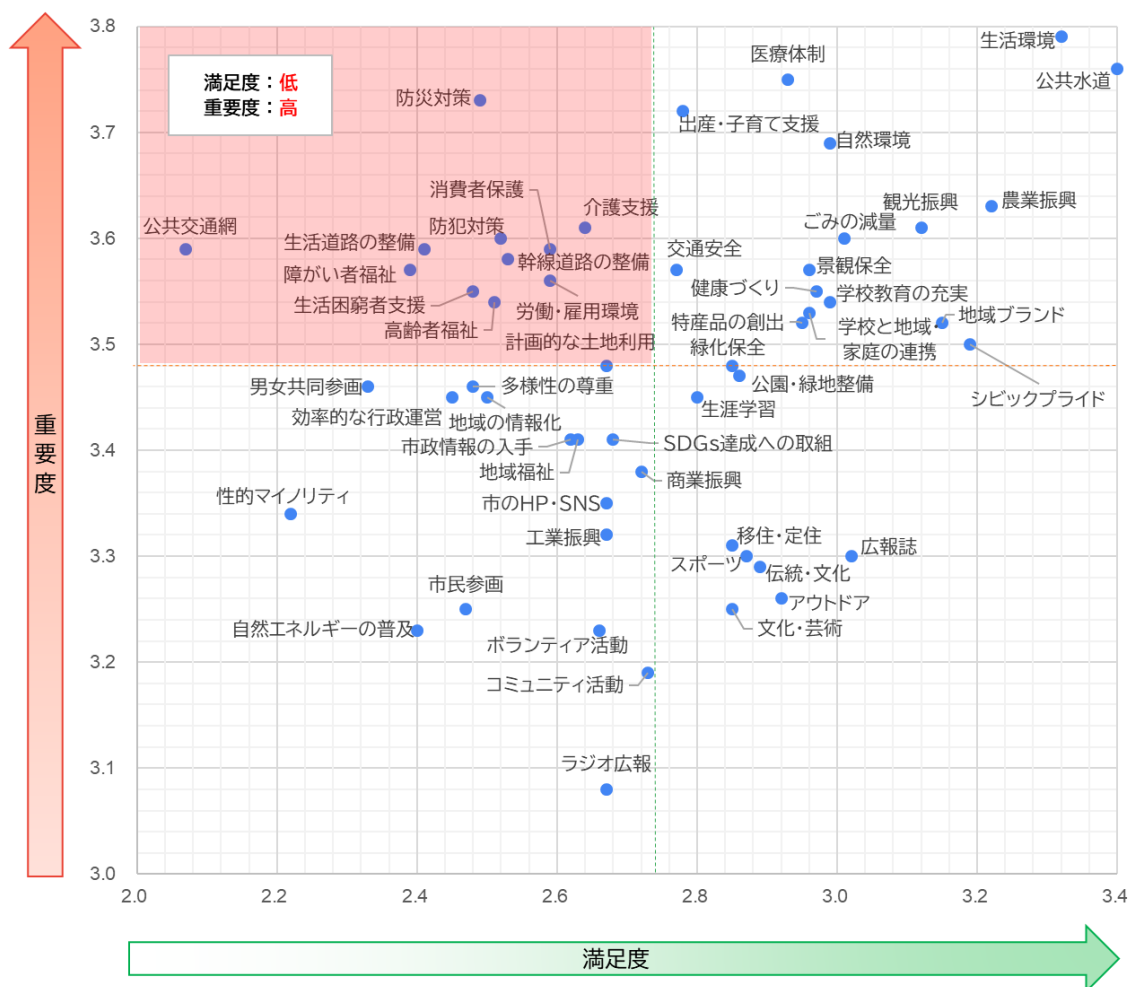
市民意識調査 満足度と重要度の状況

マトリクス分析

市民意識調査における各分野に対する満足度・重要度を集計した結果、以下の分野の満足度が低く、重要度が高いという結果になりました。

① 【満足度：低】かつ【重要度：高】の分野（全体）

- ・ 障がい者福祉
- ・ 高齢者福祉
- ・ 介護支援
- ・ 生活困窮者支援
- ・ 労働・雇用環境
- ・ 防災対策
- ・ 防犯対策
- ・ 消費者保護
- ・ 計画的な土地利用
- ・ 幹線道路の整備
- ・ 生活道路の整備
- ・ 公共交通網



前記①の中では、「労働・雇用環境」、「防災対策」の分野は2年連続で満足度が低下しており、現状の課題を把握した対策が特に求められます。

また、前記①以外にも以下②の分野は、年代によっては満足度が低く、重要度が高いという結果になりました。

② 【満足度：低】かつ【重要度：高】の分野（年代別）

- | | |
|------------------|----------------------------|
| ・医療体制（40代） | ・市政情報の入手（30代） |
| ・地域福祉（60代） | ・男女共同参画（20代以下、30代、40代、60代） |
| ・出産・子育て支援（30代） | ・性的マイノリティ（20代以下） |
| ・商業振興（20代以下） | ・多様性の尊重（40代、60代） |
| ・工業振興（20代以下） | ・地域の情報化（30代、60代） |
| ・交通安全（30代、70代以上） | ・効率的な行政運営（20代以下、30代、40代） |
| ・学校教育の充実（30代） | ・SDGs達成への取組（60代） |
| ・生涯学習（30代） | |

上記②の中で、「交通安全」、「学校教育の充実」、「多様性の尊重」の3分野は、2年連続で満足度が上昇しています。（2連続で満足度が低下した分野はなし）

上記①、②の分野は、市民満足度の向上を目指した取組が特に求められることを念頭に置き、施策の展開を検討していく必要があります。

【満足度：低】かつ【重要度：高】の分野に関する市民意見

前記①、②の分野の中に関する市民の意見を以下に記載しています。（市民意識調査の自由記載欄から抜粋。）

特に意見が多かった分野は、「出産・子育て支援」、「労働雇用環境」、「交通安全」、「生活道路の整備」、「公共交通網」、「地域の情報化」となっています。

障がい者福祉

- ◆ 「障がい者が安心して生活していける地域」かどうか疑問、差別があり。

高齢者福祉・介護支援

- ◆ 包括支援センターが1階、介護保険課が3階にある。高齢になると歩行困難者が多くなる。3階の介護保険課の窓口を1階入口の包括支援センターと同一にするか、せめて1階にすることはできないでしょうか。
- ◆ 介護保険の算出基準に納得できない。市民税は所得金額で出しているのに、なぜ介護保険は110万円引かないで計算しているのか。年金しか収入がないのに一年で89320円も介護保険に取られているのは（しかも1度も利用していないので）納得できない。

生活困窮者支援

- ◆ 一人暮らしの低所得者にも住みやすい市にしてほしい。
- ◆ 低所得者への支援金は少ない金でいいから一律に考えてください。該当者よりつらい困窮者がいらっしゃいます。

出産・子育て支援(30代)

- ◆ 土日に未満児が安心して遊べる屋内施設が欲しい。
- ◆ 病児保育、病児後保育の環境を、もう少し充実させてほしい。
- ◆ 母子家庭への取り組みが何もない。不満。女性に優しい地域とは言えない。
- ◆ 子育てに対してもっと、協力的であってほしい、保護者の負担が大きすぎるが大変。
- ◆ 子ども、幼児が遊べる遊園地。他県にあるような、お金を払ってでも楽しい所。
- ◆ ファミサポも知らない人だと怖いし、子どもを安心して預けられる整備にしてほしい。
- ◆ 妊娠中、出産後に使える家事代行サービスなどがあればうれしい。それを利用できる補助券などもあれば有り難い。（他自治体でそのようなサービスが増えてきているため）
- ◆ 子育てしやすい地域となるよう送迎の支援（習いごとや中・高生の通学）をご検討いただきたいです。
- ◆ 子育てしやすい地域となるよう市民プールの復活をご検討いただきたいです。
- ◆ 子育て支援とか、かけ声はあるが支援金くらいで保育園などの送迎バスも無く、そのための車を購入したり、駐車場代の出費が生活費を圧迫し、新たに借金をする状況が何軒も聞く状況にある。格差があり困る家庭も増えてきた。対策を願いたい。

- ◆ 幼稚園児～小学生低学年くらいの子どもの室内で遊べる場所や遊具が歩いて行かれる所に何か所も欲しいと思います。雨の時遊ぶ所が少ないです。
- ◆ 子どもたちが、暮らしやすい町・市にしたい。物価も高く、子どもたちにかかる費用も、大きく成長するにつれて、どんどん増えています。生活するだけで、精一杯。預金なんてできません。無料で遊べる施設や、子ども手当の充実を切に願います。
- ◆ 子どもたち、障がいのある子が安心して暮らせる町に。福祉サービスの充実、送迎サービス、預かり。(放デイなど)
- ◆ 少子化対策と言っているのに、3人4人産んでも、物価は上がるばかりで、働いても、働いても、税金取られて、取られて、取られているのに、なぜ非課税の人ばかり、お金がもらえるのか。国会で決まったからなのか。それなら、産まない方がいい。本当に生活が苦しいのは、非課税の人も納税者も一緒なのに。
- ◆ 子育てしやすいかと聞かれたら、保育園入るのも大変だし、学校行けば古いトイレで、はっきり言って、子育てしにくいとしか言えない。
- ◆ 雨の日でも子どもが屋外で遊べる施設を増やしてほしい。
- ◆ 保育無償化(未満児)や、給食での主食が出ると良い(以上児)。
- ◆ 子どもを認定こども園へ通わせているが、先生の質に差を感じる。先生への教育をしっかりやってほしい。また、未満児も通わせているが、あまり登園してほしくないのかな、と感じられる言動が多い。確かに未満児は親のそばにいた方がいいかもしれませんが、保育料も払っているし、こちらも都合があるのに、と思ってしまいます。未満児はまだ話もしっかり伝えられないし、通わせている親も不安な部分もあり、もっと子が親に寄り添った保育をしてほしい。
- ◆ 小学生が室内で自由に遊べる施設が欲しい。児童館は児童クラブ、幼児のためだけに感じる。
- ◆ 小さい頃から自然の中で育つことはとても大事だと思います。考える力や感性豊かな人間に育ててほしい。そのためには私たち大人も自然についての勉強が必要と考えます。
- ◆ 小・中学校の老朽化とはいえ、いまだにトイレが和式とかありえない。早く洋式にしてほしいと要望を出しても、順番だからと返ってきた。いったい、いつになったら工事してもらえるのか。あと10年?20年?なぜ、はっきり、何年後とか教えてもらえないのか。市に問い合わせたら、教えてくれるのですか。特に1年生は困っている。男の子のトイレも壊れていて、使えないのがあるから並んでいるらしい。女の子は洋式1個だけに、列を作っているらしい。

工業振興(20代以下)

- ◆ 製造業を蔑ろにしすぎ。工場跡地を分譲せず製造業を誘致してほしい。
- ◆ 工場などをたくさん作り市民の収入を増やすことが大事。
- ◆ 工業・製造業について。農地の健全を優先してほしい。

労働雇用環境

- ◆ 年寄りよりも2世代が住み続けたいと思う首都圏企業を誘致した方が良い。
- ◆ 70歳以上でまだまだ働きたい人はいっぱいいると思います。ボランティアではなく、いくらかでもお金をいただき、働ける所があれば嬉しいのですが、家にこもることなく、外へ出る

機会、情報があればもっと元気に過ごせると思います。介護の仕事 25 年、何か役に立つ場所があれば、元気な今、頑張れるのですが。でも、体力が若い頃と違いますので週 1 日だけでも 4 時間位だったら、まだやれるのですが、今日行く所、今日の用事を作り、元気に老後を過ごしていきたいと願っています。

- ◆ 仕事・求人が少ない、給料が安いのを改善してほしいです。
- ◆ 働きやすい職場、雇用がもっとたくさんほしい。
- ◆ 時給の高い誰もが働きやすい職場がたくさんほしい。
- ◆ 定年後の働き口があったら（ボランティアでも）紹介してもらえる制度もしくは制度の周知をお願いしたいです。企業側の出す有償の広告ではなく、市が間に入った形を取ってもらえると家族としても安心できます。
- ◆ ハローワークなどがつつり働くのは難しい方も多いと思うので、週 2～3 日、3～5 時間程度の情報が集まっていると希望者は多いと思います。
- ◆ 商業施設などを誘致して観光客を呼び込み、住民の働く場所を確保した方が良いと思う。
- ◆ 人口減少社会に備え若い女性が集まるような働きかけを関係機関に行ってほしい。具体的には、初任給でも生活できるレベルの賃金（手取りで 20 万以上）をもらえれば、戻ってくる若者、I ターンは必ず増える。
- ◆ 何らかの資格がなくても短時間勤務、週のうち 2, 3 日などの仕事ができる求人を増やしてほしい。障害児を育てながら、親は県外で頼れない状況でも働ける場がほしい。

防災対策

- ◆ 防災用品を一式、揃えた後に、人から言われ、「防災用品購入補助金」があることを初めて知りました。返品も封を開けた後で手遅れ。泣く泣く諦めました。このような補助金に関しての情報（お得情報）をもっと大々的に発信してほしい。災害に備える意識も高まると思います。（災害用品、揃えると結構高い。）
- ◆ 犀川の増水に対する防災対策
- ◆ 築堤など防水対策も提案をお願いしたい。
- ◆ 災害があったとき避難場所にペットも一緒に連れて行けるようにしてほしい。
- ◆ 災害時の対策の充実。ネット弱者が取り残されない対策を。
- ◆ 屋外放送が、何と言っているかわからない時があります。音も小さいですが、はっきり話せていない時もあります。もう少しわかるようにアナウンスの練習してください。

防犯対策

- ◆ 駅から帰るのに街灯が少ない。
- ◆ 夜の警察のパトロールをお願いしたい。

交通安全(30 代)

- ◆ 通学・通勤に徒歩で利用するのに歩道がない。狭い。また、夜街灯がなく歩きづらい。
- ◆ 幹線道路の横断歩道に街灯がほとんど無いので夜間の車の走行時歩行者に気づかない。もっと多く明るい信号のない交差点にしないと事故につながる。

- ◆ 三郷明盛、中萱付近に住んでいますが街灯が少ない。夜はまっ暗すぎて、子どもが成長し、電車を使用するようになった時など自転車も不安ですし、自分が運転する時もペットのお散歩、自転車乗っている人も見えづらくて恐いです。暗すぎるエリアに街灯を。
- ◆ 高齢者の自動車の運転が大変危険。「危ないな」と思う時は、たいてい運転手は高齢者です。
- ◆ ここ半年ほどで危ないと感じたことがたくさんあり、子どもには「道路のはじを歩いていてもおじいちゃんやおばあちゃんの車が突っ込んでくるから気を付けなさい」と教えています。免許更新時だけでなく、高齢者への指導や免許返納を促す活動が必要だと思います。
- ◆ 小学生の通学路の除雪が全然されない。
- ◆ 通学経路の歩道整備が不十分。用水路が危険。
- ◆ 通学路の歩道が少ない。
- ◆ 高齢者の運転する自動車事故が多くなっていますが、地域的に高齢になっても運転せざるを得ない環境であると思います。自分も高齢者の仲間ですが、高齢者が運転しなくてもよい生活環境を目指していただきたい。

計画的な土地利用

- ◆ 分譲住宅開発の許可を出す前に、袋小路にならないよう指導できないか。もうこれ以上の宅地開発は望まない。
- ◆ 公園開発、居住地近くの公園はうれしくありません。ゴミ、夜間の騒音（声）、BBQなどの煙（くさい）。今でも問題がたくさんあります。考えていってほしいです。開発はいいけれど、店や銀行が無くなり不便になりました。今後に期待します。住民に優しい街になりますように。
- ◆ 最近、田んぼのあとに建物が建ってきたり、田んぼの数が減ってきているのが少し心配です。
- ◆ そろそろ安曇野市の中心地を決めて市街地再開発すべき。もし豊科であれば国道沿い市役所回りはこれを行い利用したい。できる施設をまとめるべきではないかと思います。

幹線道路の整備

- ◆ 松本と安曇野をつなぐ橋（道路）を増やして渋滞緩和してほしい。
- ◆ 安曇野市は国道を含め、ほぼ全域の道路が片側一車線ですが、大型連休になると、幹線道路が混み合い特に私が住んでいる地区、インター周辺は渋滞で大変です。交通量が多い道路を二車線に整備してほしい。さらに右折レーンの増設もしてほしい。
- ◆ 大雪なのに道路（国道147）の除雪がなっていない。建設会社に委託してあるのに業社が除雪しない。しても一部だけ（毎回）歩道も除雪してないため子どもが靴の中に雪を入れながら歩いている。業者への指導が必要である。除雪の後の現状を見るべきだ。行政は、本当に。
- ◆ 渋滞がひどいのでなんとかしてほしいです。
- ◆ 渋滞対策として、主要交差点の右折レーン整備をお願い。R147 豊科駅交差点等。

生活道路の整備

- ◆ 幅広く歩道を作って舗装までされていますが、割れ目から草が出ていても除去されず、広く取った歩道が狭くなっています。草の除去ができないのなら、車も大きくなってきていますから車道を少し広くしてほしいです。出来ないですか。除去してくれますか。安曇野市のイ

メージが悪い。イメージダウンです。

- ◆ 道路整備をしてほしいです。右折帯がなく渋滞する事が多い。通学路に歩道がなく小学生にとっては危険。
- ◆ 近年は積雪が少ないですが、地域によって除雪の開始が遅い所があり、通行に苦勞する時があります。ご配慮いただければありがたいです。
- ◆ 道路の舗装状況はもう少し良くならないものか、あまりにも段差が多い。
- ◆ 雑草が多い。(市民との調整を図り清潔な環境の保持)
- ◆ 穴が空いている箇所が多く整備がされていない。
- ◆ 山麓線沿いの道路整備がなかなか進まないのが不安です。
- ◆ 山麓線 安曇野市の歩道の整備。(穂高温泉郷周辺は観光客も多く交通量も多く危険)
- ◆ 全体的に道がぼこぼこしています。きれいにしてください。
- ◆ 歩道も無い所がありますので通学などで使用するのその辺を対応していただきたいです。
- ◆ 地域網についても東西道路の改善を進める必要あり。
- ◆ 市所有の赤線道路の管理(除草、舗装化)
- ◆ 先日、雪が降りましたが、年々、除雪が適当になってしまっていると思います。今回も1回くらいしかできていないような感じで、1回もできていない道路もありました。何とか考えていただきたいです。
- ◆ どこの市町村でもあると思うのですが、全員が道路や歩道は使います。舗装なども大切ですが、道路の草を適切な時期に刈る(除草)ようお願いしたいです。主要な道路ですから子どもの背丈まで伸びた草がたくさん。安全面でも観光面でもどうでしょうか。
- ◆ 市道の整備をしてほしい。狭いし危ない。
- ◆ 最近道路の白線が消えている所が多いので改善してほしいです。
- ◆ 都市基盤がなっていない。まずは、安全な道を。柏矢町駅南踏切道。通行量にあっていない。
- ◆ 柏矢町駅南側の踏切が狭いです。西側に住宅が多くなったこともあり(かつ見通しの悪いカーブもあることから)、いつか事故が起こるのではないかと思います。
- ◆ 大雪が降った際に、除雪されていない道(市道、私道、県道)があり、運転しづらい。豊科管内西友近くの道路など。
- ◆ 冬期、凍結した道路を主要道路に出るまでの市道にも凍結防止剤をまいてほしい。橋の上にもまいてほしい。

公共交通網

- ◆ 運転免許返納後や、車が無い人の生活(買い物、通院、レジャーなど)をしっかりと支える事業、公共交通の充実。
- ◆ 松本市、塩尻市と比較してしまうと、駅の施設(周りも含め)が劣り残念です。
- ◆ 高齢化が進み、買い物など、車を返納した時が心配。タクシーの台数も少なく、移動手段の充実を希望します。
- ◆ 高齢者の移動手段をもっと充実してほしいです。(運転免許証を返納した後の生活が不安)
- ◆ 大糸線の利用増加と長野市への通勤アクセスが不便です。
- ◆ 各駅に駐車場を整備してほしい。

- ◆ 豊科駅に裏口があれば便利だと思いました。
- ◆ 我家では2人家族で現在は、1人1台の車で用事を済ませていますが、今後高齢となり、自分で運転できなくなった時のことを考えると、あまりにもあづみんは、使いにくいと思います。もっと簡単に乗れる交通手段ができるといいと思います。
- ◆ 新幹線利用で一番近い安曇野という明科だが、利用してみて感じたことは、長野からの利便が悪い。一時間かかるし、また駅からの利用する手段がない。近くにコインロッカーもない。中央線からの利用でも特急到着前に篠ノ井線が発車してしまう。
- ◆ 松本市のようにタウンズニーカーが欲しい。あづみんは使いにくい。
- ◆ 公共共通機・バス等の充実をしてほしいです。自転車と自動車の分離を望んでいます。特に山麓線の自転車は危険、歩行者でさえ危険です。公民館や病院、スーパー等を継ぐバス等があれば学ぶこと、出かけることが、高齢者も可能です。
- ◆ たつみ原に住んでいます。高齢者が外出する時に利用できる交通機関が使いづらいと思います。(予約方法、料金、情報収集の方法)ぜひ、ご検討をお願いいたします。
- ◆ 東京や長野市に行く時、明科駅を利用したいと思います。大きい駐車場が駅前にあると、観光客も含め利用数が増えると思います。
- ◆ 私は毎月松本の病院まで行っています。今は主人が車で送ってくれていますが、主人が送ってくれなくなれば明科駅まで30分以上かかります。とても歩いては行けません。何か方法がありますか。
- ◆ 今後運転免許返納者が増加します。交通手段に困ります。あづみん車の増加、運賃など考えてください。(運転車不足の問題もあるかと思いますが)
- ◆ 不安なために免許を返納しづらいと考えています。
- ◆ 公共交通は「存在している」とは言い難いくらいに貧弱。周辺市町村・県・JRと連携して大系線・篠ノ井線の本数を増やしてほしい。あと明科駅・穂高駅間に毎時バスを運行すれば観光客の利便性が上がる。市民も新幹線を使いやすくなる。デマンド交通は使う気にならない。現状の「車は1人1台」という居住条件は、若者の定着には不利といえる。(貧乏が加速するので車のいない都会へ出る)
- ◆ 信大に行く市バスが松本市内にはあるのに、なぜ安曇野市にはないのか不思議に思った。
- ◆ 明科駅について、朝夕だけでなく昼間も「しなの」の停車本数を増やして交通網としての東の玄関口の価値を高め、かつ市内交通網確立へつなげてほしい。(バス・タクシー・レンタサイクルなど)
- ◆ 定期バスがダメであれば、「あづみん」をもっと使いやすく(DXを利用した)高齢者にも、一般市民にも住みよい街になるようお願いします。
- ◆ 安曇野市の市中心は生活しやすいが、市境の方へ行くと生活しにくい。車の無い高齢者などは、生活が不便だと思う。バスなどを増やした方が良くと思う。
- ◆ 公共交通機関(バス)の充実を求めています。大系線の駅から自宅付近に向うバスがあれば便利である。
- ◆ 公共共通があづみんしかなく、不便で転居せざるを得なかったシニア世代の家庭が複数あったと聞いた(2年前)。本当にあづみんだけで日常生活ができるのかどうか、調査・改善の余地があるのでは。

- ◆ 高齢者増加、核家族が進む車社会で交通難民増加は確実とされ、経済・健康・事故などに直結する交通機関に関する事項は早急な課題と考えます。市の援助、運営で、いくつかの地域に分けた循環定期小型バスなど高齢利用者の立場を優先した運航の検討をお願いしたいと存じます。
- ◆ 高齢になり自家用車が使えなくなると非常に不便な地域です。予約のいらない安価な路線バスの交通手段を整備していただきたいです。
- ◆ あづみんの運営時間がもっと長いと利用しやすいと思います。せめて、7時～19時で運営してほしいです。理由としては、高齢者が病院の行き来に使用する際に、開始時間が遅くなると予約に間に合わないためです。
- ◆ 路線バスが無いので、免許返納した時のことを考えると終の住処にするのは難しいと感じます。車を持たなくとも不便なく暮らせるような公共交通機関を整えてほしいです。
- ◆ 車での生活が中心ですが、現在は免許があり困りませんが、これから年を取り車が使えなくなった時、自由に移動ができなくなり生活が困難になる不安があり、現在の市の政策ではとても不安です。もっとバスなどの整備に力を入れてもらいたい。
- ◆ 以前はあづみんが走っていて、今はのる一とに代わっていますが、料金をプラスして良いので広域（松本市）乗り入れがあったら助かります。信大病院や美術館、公共施設などへ。

学校教育の充実(30代)

- ◆ 松本市や、池田町は、子ども（小学生）もタブレットを持ち帰り、宿題の日記や、勉強を取り入れているが、安曇野市では、タブレットの持ち帰りや勉強の宿題を1日もしたことがなく、不満だ。
- ◆ 教育に、もっともっと力を入れるべきではないか。
- ◆ 教育について。個人に合う教育と言われているますが、それも大事かもしれませんが、まずは、先生一人一人が余裕を持てるよう、仕事を分担したり教員を増やしたり、先生の職場環境を良くしてほしい。大人に気持ちの余裕がなければ良い教育は生まれません。先生は子どもに向き合い、雑務は雑務係がいれば良いのに。テストの採点、事務作業は外注で。
- ◆ 小学校で通学路4km以上がバスの該当になるということですが、バスの利用を見ても、4人くらいしか乗ってない日もあります。もう少し利用しやすくしてほしい。すぐ近くの児童がバス利用に該当していないと、集団登下校もしにくい。バス通学の見直しをぜひ。子連れの移住者を呼び込みたいならば、このあたりまで整備していかないと。

生涯学習(30代)

- ◆ 生涯学習センターを利用しています。書道、大正琴等々集まれる場所として近くにあると助かります。でも老朽化した建物、文化財となっているのに市からの補助は受けられないと聞きました、残念です。先生達の間だけでは難しいと思うのでよろしくお願いします。

市政情報の入手(30代)

- ◆ 次世代や移住者、他地域への情報発信等まだまだ足りていないように感じます。みんなの記憶に残る、誇りある安曇野市になることを期待します。

- ◆ 行方不明者の連絡や緊急時等に屋外に流れる無線放送が全く聞き取れないので、放送と同時に LINE 配信するなどしてはどうでしょうか。
- ◆ 住民の声がタイムリーに反映されるようなシステムを拡充してください。食の安全やワクチンの危険性などより真剣に取り組んでほしいです。

性的マイノリティ(20 代以下)

- ◆ 同性パートナーシップ制度導入。

地域の情報化(30 代、60 代)

- ◆ デジタル社会も良いけど、年寄りにもわかるよう、また、参加できるようお願いします。年寄りを見捨てないで。
- ◆ 安曇野市のホームページをスマホで見る時、見にくいので、スマホでも見やすくしてほしい。
- ◆ 年寄りには、ホームページなどを見られる者ばかりではありません。
- ◆ 高齢者であり、デジタル、スマホインターネット商店でのカード、スマホ支払い等使えば便利と思うが、知識ないので使えない。
- ◆ デジタルの弊害が大いにあり。
- ◆ 市役所の自己満足ばかりと思います。
- ◆ デジタル推進とかですが、アナログ方式もメリットがある。トランジスタラジオやカーラジオは電波形式はアナログ方式だし（テレビはデジタル方式になった）国内線の飛行機の管制用 VHF 航空無線もアナログ方式。
- ◆ 申請するにしても電子化、DX の波に飲まれ、これから高齢の域に差しかかる者としては「不安」しかありません。

効率的な行政運営(20 代以下、30 代、40 代)

- ◆ 会計年度任用職員の待遇の改善。
- ◆ 支所の職員人数は余裕がありすぎている気がします。大変な部所もあるかと思いますが、全体的に職員人数の見直しも必要かと。議員の報酬も決して安くはないし、仕事への個人差もありすぎです。一般から見ると、こんなにたくさんもらっているのと驚きです。
- ◆ いつ行っても、どの課も、市役所職員の対応が不親切です。他の市、県とは比べものにならないくらいです。
- ◆ 来庁した市民に対して、担当外でも挨拶を心がけてほしいと思います。窓口の人がきてから、対応するまでに時間がかかり過ぎると思います。

SDGs 達成への取組(60 代)

- ◆ SDGs は他と横並びでやっていけるだろうし、一般国民にはどうでもいい。
- ◆ SDGs とは理解できません。
- ◆ SDGs について。頭文字を並べても何のことかわからない。